

編集後記

今年もインフルエンザ流行の季節を迎えました。千葉県でのインフルエンザ定点あたり報告数をみると、毎年1～2月あたりにピークがありますが、2014～2015年シーズンでは12月と1～2月の2回ピークがみられています。この原稿をまとめている12月ですが、インフルエンザは例年の立ち上がりのカーブに一致して増えてきており、幼稚園・小学校の学級閉鎖も始まりました。一方でインフルエンザワクチンの供給が遅れ、一部の地域ではワクチン不足のため希望者に接種できない状況が続いていますが、急ぎインフルエンザ流行への体制が整うことを願っています。

2018年度は診療報酬・介護報酬同時改定の年です。2018年度社会保障費増は5,000億円が目安ということから「マイナス改定」を財務省は主張しており、医療者側との攻防の激しさが増していました。現時点での最新情報としては、診療報酬全体ではマイナスですが、「本体部分」は0.55%プラスになるとのことです。この他に高齢化が進むわが国の医療体制に大きな影響を及ぼしかねない動きもありますが、小規模な施設も含めて医療現場が取り残されないようにしてほしいものです。

今月の特集は「どう診るか？どこまで診るか？小児の軽症外科」です。小児科は言うまでもなく総合診療科であり、幅広い分野にわたってfirst touchを任せられることは多く、その一つに外科系の疾患があります。小児科医は診察の判断によっては専門医を紹介することになりますが、小児科医が外科的処置を行うケースも珍しくありません。本特集で

は、小児科医が外科系疾患を診る時のポイントについて外科サイドからまとめていただきました。小児外科のみならず救急診療科、整形外科、歯科口腔外科なども参加した現場からの大切なアドバイスでありメッセージです。「これは役立つ」といった特集です。ぜひ活用され、外科系診療科との連携を深めていただきたいと思います。

綜説欄には特発性血小板減少性紫斑病（ITP）と金属アレルギーに関する2つの論文が掲載されています。ITPの多くは治癒する急性型ですが、遷延し慢性型に移行する難治性ITPも少なくありません。日本小児血液・がん学会血小板委員会からの診断・治療に関する最新情報がまとめられています。もう1編のテーマは金属アレルギーです。金属アレルギーとしてチョコレート、ココア、豆類等に多く含まれるニッケル、コバルト、クロムがあり、全身型金属アレルギーの乳幼児例の報告も少なくはないということです。これらの金属は子どもの成長に必須なものであり、小児科医もよく理解しておかななくてはならない疾患です。

小児保健欄や社会小児科学欄にも大変興味深い論文がいっぱいです。こちらも是非ご活用下さい。

本誌が出る頃はインフルエンザ流行のピークでしょうか。ワクチン不足の影響がないことを願っていますが、先生方はインフルエンザだけではなく冬の感染症への対応にお忙しい毎日だと思います。診療の合間に本誌をお楽しみください。

(河野 陽一)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第59巻第1号 1月号

2018年1月1日発行（毎月1回1日発行）

定価（本体2,600円＋税）

年間購読料金

定価（本体41,000円＋税）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に記載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <（社）出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。